わ か 草

第６９号　令和6年１月１日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂３-３-２５

2024年初日の出
〈撮影：益山龍雄副院長〉

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。期待に胸はずむ新しい年がやってきました。職員の皆様、当センターをご利用の皆様にとって、今年も良い年になりますようお祈り申し上げます。

皆様、神社や寺院に初詣に行かれたでしょうか。神道では生命力の低下（気枯れ）によって起きる災難や罪障などの穢れ（けがれ）を嫌い、これを清めて新しく蘇るために祓い（はらい）を行います。正月は、自分では気づかないことも含めて前年の悪い行いや嫌な思い出をすべて祓い去り、清らかな若々しい心で再生して新しい年を迎えようという行事です。「蘇る（よみがえる）」は「黄泉還る」であり、日本神話で、伊邪那岐神が、死んでしまった伊邪那美神を求めて黄泉の国（よみのくに＝死者の国）へ行ったものの、命からがら逃げ帰り、禊（みそぎ）を行って穢れを祓い活力を取り戻したことに由来するといわれます。新年を迎え、心機一転新しい自分に生まれ変わって、この一年を力いっぱい励んでいきたいと思います。

昨年も当センターの運営はおおむね順調に推移し、大きな問題なく無事に新しい年を迎えることができました。日頃の職員の皆様のご尽力、ご協力に感謝申し上げます。重症心身障害児者の長期入所はほぼ１００％の病床利用率で推移しておりますが、一方、在宅支援の中心となる短期入所と通所の利用については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために利用者数の制限を行っていたこともあり、低い利用率にとどまっています。昨年は５月８日から新型コロナウイルス感染症が５類に移行したこともあり、院内感染防止のための制限を少しずつ緩和して、多くの方々が当センターを利用できるよう、また日中生活の援助、院内行事、外出、戸外活動、面会など、利用者様やご家族のご希望に添えるよう努力していますが、まだコロナ禍前の状況に戻っていないのが実情です。医療機関ですので、もちろん院内での感染拡大を起こさないことが最大の前提となりますが、今後さらに利用の拡大、入所されている方々の生活の拡大を図っていきたいと思います。地域で在宅療養している重症心身障害者の方々は年々重症化、高齢化しており、介護するご家族も年々高齢化してきます。ご家族を含めて在宅生活を支え続けるために、今後の対応も考えていかなければなりません。

さて、当センターでは、開設当初からの施設機能の順次拡大、時代とともに変動する障害福祉制度や社会情勢の変化への対応を目的として、重い病気や障害をもつ方々のためにより適切なサービスを提供できるよう開設時から中長期計画を定めており、２０２０年から２０２５年は第６期の中期計画が進行中です。運営の柱として以下の４項目を定め、この中で第６期に重点的に取り組む項目としてさらに詳細に１５項目を取り上げています。

①高度な医療・療育・療養介護とライフステージに応じた多様な取組み
②地域との連携強化と在宅支援の充実・強化
③専門人材の育成と活用
④いきがいを持って働ける職場づくり

時間の経過とともに社会状況が大きく変わり重症児者施設をめぐる状況が変化してきたことや、コロナ禍のため今後の見通しがたてにくく積極的に動けなかったこともありますが、この１５項目に対する具体的な行動計画の設定と実行が前に進んでいない状況になっています。今年はより高い目標に向かって具体的な行動指標を作成し、順次実行に移していく必要があります。

私達の仕事は毎日同じような業務の繰り返しにみえますが、日々、入所者様、利用者様の今日の生活が最善のものになるよう努力し、明日へ、未来へとつないでいく仕事です。日々の仕事は、さらには職員自分自身の生き甲斐や人生を毎日つないでいくことにもなります。当センターも開設後１８年を経過しましたが、これからも途切れることなく、障害を持つ方々の生命と暮らし、権利、尊厳を守り続けていくことが使命です。今年も力を合わせて取り組んでいきましょう。

本年も職員の皆様、当センターをご利用になる皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

院長　椎原弘章

新年ご挨拶
令和6年1月4日
当センターにて

クリスマス会

3南

今年は、マーケットをモチーフに、ルーレットやメリーゴーランドがあったりと、クリスマスの雰囲気を体験しました。

マーケットに並ぶのはこの日のために作ったリースなどのクリスマス飾りや粘土で作ったクッキーやケーキなど華やかなもの。

ルーレットはカジノの雰囲気を出して、皆さんでボールを投げ入れて出る目を競いました。

利用者様のドキドキするような表情が印象的でした。また、車椅子のまま用意されたシートに乗り、それを職員が回すとメリーゴーランドに乗っているような感覚に。電飾ライト、キラキラした布を周囲に巡らせて動きを演出すると、皆さん様々な表情を見せてくれました。

特別な体験となった1日でした。

3西

12月15日（金）にクリスマス会を開催しました。

H様は以前自身で作成した絵本「ももじろう」をリメイクして、リハビリの時間を通じて「それからのももじろう」の話を作成されました。その物語を利用者様みんなで演じたいと申し出ていただき、今年のクリスマス会で演じることになりました。

今年も感染対策を考慮して2部制で行いました。劇では、皆さん1人ひとりが役を演じました。

劇中は引っ張ったり、掴んだり、ボタンを押したり、手を動かしたり、セリフを言う等、皆さん得意な動きで役を演じてくれました。

当日はきれいな電飾をはじめ、悪役のロボットやサンタなどの特別ゲストも登場して、楽しい雰囲気になったのではないかと思います。

2南

スペシャルゲスト、チアリーダー「シルバーウイング」の皆様に来て頂きました。迫力あるダンスや笑顔いっぱいのチアさん達に利用者様も職員も笑顔あふれる時間を過ごすことが出来ました。

最後はダンスを教えていただき全員でクリスマスソングに合わせて踊りました。手や足を積極的に動かして利用者様も全力で踊っていつも以上に盛り上がっていました。

続いて、支援科職員によるハンドベルの演奏でクールダウンを行い、最後はサンタクロースがトナカイのそりに乗ってプレゼントを持ってきてくれました。サンタクロースに驚いた利用者様もいれば、笑顔で楽しんでいた利用者様もいて、最後の最後まで全員が楽しいクリスマス会になりました。

2西

少人数での開催となりました。主任の言葉で始まり、利用者の挨拶では利用者様達が大興奮！

創作活動でみんなで作ったクリスマスリースが一番に点灯されると「きれい」と歓声が上がり、みんな笑顔に！ジングルベルロックの音楽に合わせて、キラキラ衣装をつけた4人がノリノリダンス♪

手袋の影絵で、動物の影を当てるクイズでは、職員の名前が出てきて、違うよ～と言いながらも大笑い！

最後はサンタさんと、とーぶくんが登場！

プレゼントのカードを貰って、玩具もたくさん貰って大盛り上がり！

人数は少なかったけれど、２西らしくワイワイ楽しいクリスマスになりました。

とーぶくん

通所

乳幼児は１２月２２日に大行事として数年ぶりに登録者全員が集まれるクリスマス会を開催できることになりました。点灯式・トーンチャイム演奏・ゲーム・サンタさんからのプレゼントなど、楽しいプログラムがいっぱいでした。初めての方もいれば、久しぶりに会える方もいて、クリスマス会を通して、仲良く交流できました。

成人は１１日～１５日にクリスマスウィークとして全員が参加できるように行いました。午前に点灯式をしてサンタさんの登場！とても可愛らしいサンタさんが来てくれて皆さん笑顔があふれていました。午後は毎日コンサートがあり、新メンバーを迎えたＪＯＹの発表、規制が少しずつ緩和し、久しぶりに生演奏でのボランティアコンサート、みんなでトーンチャイム演奏やスライド鑑賞など賑やかな１週間となりました。

第４８回日本重症心身障害学会学術集会報告

第４８回日本重症心身障害学会学術集会が、１０月２６～２７日の２日間、千葉の幕張メッセ国際会議場にて開催されました。療育部からも５題発表しました。

日常ケアに関する研究結果報告３件、安全管理と記録監査結果に関する研究結果２件でした。

中でも口頭発表の医療安全については会場からの質問も多く、参加者の関心の高さがうかがえました。

特別企画では当センターの初代院長である「有馬先生」の追悼シンポジウムが開催され、有馬先生の偉大な功績を改めて知り当センターの職員であることに誇りを感じました。

また、研究に関するパネルディスカッションにはセンターの支援員、看護師計４名がパネラーとして参加しました。

研究の楽しさ、困難さ等についてそれぞれが体験したことを踏まえて意見を述べました。

約１年間の研究は辛い時もありましたが、研究の集大成となったと思います。

（療育部　中野）

当センターからは療育部５演題、医局１演題、薬剤科１演題、地域療育支援室１演題の計８題が発表され、日常の疑問や問題点が活発に議論されました。

新型コロナウイルス感染症の報告は昨年と比べかなり少なくなった印象です。

近年、結核が低蔓延化する一方、非結核性抗酸菌症は１０年前と比べ２倍以上に増加しており、中でも、Mycobacterium abscessus（アブセッサス菌）感染症は重心施設でも感染確認されたとの報告がありました。

今後、全国多施設スクリーニング研究が予定されています。

時の流れとともに感染の流行も移り変わっており、「最新の感染流行には常に関心を持つことが大切」と実感いたしました。

（医局　荒井）

写真につきましては、全て掲載の許可をいただいております。

リハ科　連載コーナー

療育部発表者の皆さん

ことばを発したり自分の意思を伝えたりするなどが困難な重症心身障害児（者）（以下、利用者と表記）と、「どのようにコミュニケーションを取れば良いか」と質問をされることがあります。確かに利用者の多くの方は、応答性としての表出手段が少ないことで意思が分かりにくく、誰もが見える形で表出できるとは限りません。

言語聴覚士（以下、ＳＬＴ）は、すべての利用者は「人やものに働きかける力がある」と捉え、「その方が持っている表現方法をみつけて理解すること」を大きな支援の一つとしています。特に自己選択・自己決定の機会を設け、本人の意志が反映できるように配慮する・共に楽しむということを重要視しています。

ＳＬＴの個別活動では「手紙」「メール」を使った活動も行っています。

手紙は、ご本人の思いを伝えなければなりません。

実物・写真・絵・文字盤などの可視化した環境を利用しながら「その方の伝えたいこと・心に残ったこと」を伝えてもらえるように工夫しています。

今後も、コミュニケーション（個別活動）を通じて、利用者の理解を深め、潜在能力を引出す方法を探求することを続けて行きます。

（リハビリ科　根本）

御礼

東京おもちゃ美術館様よりたくさんのおもちゃをいただきました。

東京おもちゃ美術館様と日本財団様が、病気や障害がある子どもたちにも「好きな遊びで夢中になる」ことを体験してほしいという想いを込めて共同制作された、難病児と家族のためのおもちゃセット「あそびのむし」をいただきました。本事業は、ただおもちゃを配布するものではなく、難病児が増えている実態や、ご家庭での医療的ケアのご家族への負担の大きさなど、難病児とそのご家族が抱える問題や存在自体を知ってもらう社会啓発も目的としているそうです。

厳選された４５個のカラフルなおもちゃたちは、おもちゃ図書館だけでなく病棟やリハビリでも活用できるように職員で厳選し各部署に配布をしています。是非お手に取って楽しんでください。

（庶務係）

地域療育支援室からのお知らせ～

ウクレレ演奏のご紹介　～チームコクア KOKUA

みなさん、こんにちは。チームコクア（ＫＯＫＵＡ）です。

チームコクアは、ウクレレ練習を一緒にやっていた仲間の中から、ボランティア活動に関心のある有志が集まって結成されたチームです。ですからボランティア活動が大好きです。

コクアは、ハワイ語で「助け合う」「手伝う」「協力する」「相互に助け合う」「共同で何かする」「人のために何かする」といった意味を持つ言葉です。

そして、他人へ敬意と思いやりを忘れない様にということを大事にしています。

まさに、アロハの精神なのです。（ハワイでは「アロハ精神」が法律化されているんですよ）私たちは人のために役に立ちたいという気持ちと私たちも楽しく活動するという気持ちの両方を大切にしています。

ですから、ウクレレの演奏、歌を中心に活動していますが、お互いに楽しむことがモットーなので、なんでもありです。フルート演奏が入ったり、リズム楽器が入ったり、踊りやセリフが入ったり…。８月の時には、院長先生が飛び入りで参加してくださいましたね。

私たちも、とっても楽しい時間を過ごすことができましたありがとうございます。

とにかく、みなさんと一緒に楽しい時間を過ごせたらいいなとメンバー全員がいつも思っています。

また、みなさんとご一緒に楽しく過ごせる時間を楽しみにしています。

（チームコクア一同）

新春

東部あれこれ

１０月から１２月のセンターの動きです。

東京では１１月７日の最高気温が２７・５度を観測し、その１週間後の１３日には木枯らし１号が吹くなど、あまり秋の気配が感じられずに季節が移ろいました。

10 October

１０月と１１月に乳幼児通所と成人通所、病棟のバスハイク・遠足が行われました。

また、通所と病棟の夕涼み会が開催され打ち上げ花火などを楽しみました。

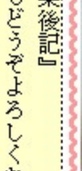
11 November

２８日に運営協議会が開催されました。対面による開催は４年ぶりでしたが、医療機関や関係機関の委員の皆様にお集まりいただき、当センターの事業活動等についてご意見をいただきました。

２１日から２４日まで武蔵野大学の看護実習生を受け入れました。

12 December

１日は当センターの開設記念日でした。栄養科から心のこもった特別メニューが提供され、みんなで１８周年をお祝いしました。



１日には、昨年１２月にご逝去された当センターの初代院長で名誉院長の有馬正高先生の追悼講演会が開催されました。また、１１月２７日から１２月１５日まで、有馬先生の功績と当センターの歴史を紹介する写真や年表などを展示しました。

１１日から２２日まで、乳幼児通所、成人通所、各病棟のそれぞれでクリスマス会が開催されました。サンタさんからプレゼントをいただき、楽器の演奏や劇などで楽しく過ごしました。

メリークリスマス！

（事務長　松浦）

開設記念日
～１８周年お祝い膳～

『編集後記』

本年もどうぞよろしくお願いいたします。行事等を通してご家族様も一緒にたくさんの笑顔が見れますように・・・

☜これまでのわか草をご覧になりたい方はこちらからどうぞ

有馬先生追悼講演

当センターは、１２月１日で１８周年を迎えました。今年度は、開設記念日に昨年１２月１２日にご逝去された有馬正高先生のこれまでのご功績と当センターのあゆみをまとめた年報や写真の展示を行いました。

追悼講演会も開催し、有馬先生と親交が深かったソレイユ川崎の副施設長の須貝先生が有馬先生のこれまでの足跡と思い出、今後の重症心身障害児（者）医療についてご講演くださり、職員は終始熱心に耳を傾けていました。

これからもセンター一同、有馬先生の想いを受け継いでいきたいと思っております。

（広報委員会　事務局）